第109回　獣医学セミナー

「哺乳類らしさ」をめぐる試み
～形態と細胞のあいだで考える獣医学の現在地～

今井啓之先生
（獣医解剖学教室）

2026年11 月 25日（水）16:00-17:00

iCOVER1階 101

哺乳類とは一体全体何物なのか？ 我々自身が哺乳類であるにもかかわらず、その特性を私たちはどれほど理解できているのだろうか。胎生、乳腺、恒温性、顎関節――教科書的な定義はあれど、細胞の振る舞いを見つめ直すほどに、その境界線は案外あやふやに思える。
かつて細胞工学の現場で「哺乳類らしさ」を探し求め、現在は原始的な形質を残すとされる動物の比較解析や、マウス細胞の鶏卵内での分化誘導という研究領域へと足を踏み入れてきた。さらに、学生らが追究するマウスの胎生検査法の検証や受精卵の低温耐性といった実験結果も交えつつ、我々が向き合う哺乳類らしさに代表される生命現象の課題と現状を共有する。果たして、このような試みは、獣医学という実学の体系のどこに位置づけられるのか。明確な答えが出るかは定かではないが、その現在地を聴衆の皆様とともに考察したい。



★　教員・学生の積極的な参加をお願いします！★

連絡先：吉嵜（5890）、Alice L. C.（5855）